



# 地域医療を支え、世界に羽ばたく 広島大学医学部 75周年



国が進めるスーパーグローバル大学創成支援事業(トップ型)の13大学に、中四国で唯一選ばれた広島大学。その重要な一翼を担う広島大学医学部が創立75周年を迎えた。地域や世界で活躍する医療人は7000人。広島市内で開業する医師の約7割を広大出身者が占める。コロナ禍の中、住民の生命と健康を守る「地域医療の誓(とりで)」への期待は、ますます高まっている。



広島大学長  
**越智 光夫**  
1977年卒

標準で高度化した広島の地に開学した広島大学は、今や世界トップ100を自負する国内有数の総合研究大学として発展しています。医学教育・研究・診療の拠点である広島大学医学部は、国際的に高い評価を受けている医学研究者や、広島の地域医療を守る医療人を数多く送り出してきました。創部から75年を経て、「平和の大学」としての広島大学に対する社会の期待も高まっています。人種がコロナ禍に直撃している現在、一日も早いパンデミックの制圧に貢献するため、医学部・大病院をはじめ広島大学の総力を挙げて取り組んでいく所存です。皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。



広島大学医学部長  
**粟井 和夫**  
1986年卒

広島の近代医学の発祥は、1877(明治10)年新設の広島医学校にさかのぼります。黎明(れいめい)期にあったのが国の医学発展に尽くしたのは、広島の先人たちでした。原爆投下の前日に開校した広島県立医学専門学校は、幾多の苦難を乗り越え、県立医科大学、広島医科大学を経て広島大学医学部となりました。その後、広島大学医学部は、広島の復興・発展とともに中四国を代表する医学部として発展してきました。2018年には、日本医学教育評価機構により、国際基準の医学教育を実施していると認定されました。地域社会や世界で活躍できる優秀な医師を養成するために、今後も国際的に通用する医学教育の充実力を注ぎ込んでまいります。皆様のご支援のほど、よろしくお願いたします。

## 1人の医学部出身学長を輩出

広島大学は、初代の森戸辰男学長以来、12人が学長を務めている。出身学部別で見ると、4人が医学部の出身で、理学部と並んで最も多い。



第4代  
(1969~1977)  
**飯島 宗一**  
(病理学)



第9代  
(1993~2001)  
**原田 康夫**  
(耳鼻咽喉科学)  
1957年卒



第11代  
(2007~2015)  
**浅原 利正**  
(消化器外科学)  
1971年卒



第12代  
(2015~現在)  
**越智 光夫**  
(整形外科学)  
1977年卒

## 主な受賞者

### 紫綬褒章

- 1995年 原田 康夫
- 2004年 木村 榮一
- 2015年 越智 光夫

## 文部科学大臣表彰

- 2010年 科学技術賞(科学技術振興部門) 越智 光夫(整形外科学)
- 2011年 科学技術賞(開発部門) 河野 修典(分子内科学)
- 2012年 科学技術賞(研究部門) 山脇 成人(精神神経医学) 岡本 泰昌(精神神経医学)
- 2020年 科学技術賞(研究部門) 越智 光夫(整形外科学) 安達 伸生(整形外科学) 亀井 直輔(整形外科学)

紫綬褒章、文部科学大臣表彰の受賞者数は中四国の大学医学部で最多

## 会長・会頭を務めた主要学会(最近10年間)

- 2010年 第106回日本精神神経学会学術大会 山脇 成人
- 2013年 第86回日本整形外科学会学術大会 越智 光夫
- 2013年 第116回日本小児科学会学術大会 小林 正夫
- 2014年 第108回日本病理学会総会 安井 秀
- 2017年 第118回日本耳鼻咽喉科学会総会 平川 勝洋
- 2017年 第69回日本産科婦人科学会 工藤 美樹
- 2018年 第115回日本内科学会総会・講演会 河野 修典
- 2018年 第117回日本皮膚科学会総会 秀 道広
- 2018年 日本麻酔科学会第65回学術集会 河本 昌志
- 2020年 第79回日本歯科学会学術大会 安井 秀
- 2020年 第106回日本消化器病学会 茶山 一彰

# 歩み



広島大学医学部の前身である広島県立医学専門学校は、原爆投下前日の1945年8月5日に開校。校舎と附属病院(県病院)は原爆によって全壊焼失したものの、前日のうちに集団疎開した多くの教職員・学生は無事だった。

48年、県立医科大学となり、広島医科大学を経て53年、国立に移管され広島大学医学部として再出発。57年には医学部と附属病院が呉市から広島市の旧陸軍兵器補給廠跡(現在の霞キャンパス)に移転した。

69年、医学部に薬学科(現在の薬学部)を設置。さらに92年には保健学科が設置された。大学病院は2003年に入院棟(地上10階、地下1階)を新築。13年にオープンした診療棟(地上5階、地下1階)は内科と歯科の外来を統合するなど、緊密な医療連携が特徴だ。医学・歯学・薬学・保健学・原医研・病院が一堂に集う霞キャンパスは、患者さんに寄り添う最先端の医療を提供するとともに、優れた医療人を育てるメディカルセンターとして発展している。

## 医学研究成果を世界へ発信!

- がんの形成に必要な遺伝子を見出し、2つの論文を同時発表。(Nature, Cell Biology, 2009/10/15)
- がんの転移を抑制するメカニズムの発見。がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)
- がん転移の抑制因子を特定し、がん転移の抑制剤を開発。(Nature, Cell Biology, 2010/10/15)

## 世界の医学部と学生交流



広島大学は、ノーフェー医科大学(イタリア)、グレートブリテン大学(イギリス)、ソフィア医科大学(ブルガリア)、アンカラ大学(トルコ)、金北医科大学(韓国)、マラカ国立医科大学(マレーシア)など、世界各地の12の医学部と立派な国際交流プログラムを実施。毎年20人以上の医学部生が短期・長期で来学し、2020年2月には、エジプトの18大学で学ぶ医学部生73人が広島大学医学部・広島大学病院で研修し、日本の最新医療技術を受講した。

# コロナ禍に立ち向かう

## 救命最前線



24時間365日、広島県・市民の生命を支える大学病院。新型コロナウイルス感染症の感染が広がる中、県内唯一の第一感応指定機関としての使命を担っている。

コロナ治療の最前線に立つのが、本専任教授が率いる救急集中治療科。医師27人(うち救急科専任20人)と西日本で最大の規模を誇る。県内の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者のうち重症症例を受け入れる役割を担っている。重症患者に欠かせない体外式人工肺ECMO(エクモ)を5台備え、専用の病室も4床確保している。

エクモによる呼吸管理は機材に加え、人員、体制、知識、技術全てが求められる。従来から、医師をはじめ看護師、臨床工学技士、理学療法士など多職種でエクモチームを構築しているのも特徴。エクモ症例数は国内トップクラスだけに、期待は大きい。

広島県は独自のトリアージセンターを設け、COVID-19患者が発生すれば、症状に合わせて病院に振り分けるシステムを取っている。大下俊一郎准教授らがトリアージの一翼を担い、重症度の判定も行う。人工呼吸器が必要な患者を重症とし、エクモの一段階前で搬送するため、より早い対応が可能だ。

もとより、通常の救命救急医療もおろそかにはできない。「大病院は最後の砦。行政や他の病院との連携を保ちながら、しっかりと役割を果たしていく」と本専任教授。スタッフ一丸となって対応を続けている。

## 医士の総力を結集

COVID-19の感染拡大を受け、「広島大学COVID-PEACE PROJECT 2020」を4月17日に霞キャンパスに設置。27研究室(71人)の協力を得て、学内で新型コロナウイルスのPCR検査を実施できる体制を構築した。広島県「官学連携によるCOVID-19の検査研究体制構築事業」の一環として、行政検査を支援し実施中だ。

さらに、新型コロナウイルスに対する予防ワクチンや治療薬開発、感染状況把握の疫学調査、遺伝子解析、ゲノム解析など、医学・医療系の研究室が一丸となって診断や対策、対策、ウイルス学的研究などに取り組む。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AIAMED)の感染症対策技術開発事業では、実証・改良・有効性確認・基礎の4分野で田原俊俊教授(薬学部)、志馬伸朗教授、大宅宏喜教授、坂口剛正教授による研究チームが採択され、具体的な成果も出始めている。

## 地域の医療を支える 広島大学医学部 (医師出身者が長を務める 主な医療機関など)

- 独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター(院長 下瀬 省二)
- 独立行政法人国立病院機構 広島西医療センター(院長 奥村 卓也)
- 独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター(院長 勇木 清)
- 独立行政法人国立病院機構 広島東医療センター(院長 山本 清)
- 広島県立総合医療センター(院長 山本 清)
- 広島県立総合精神保健福祉センター(所長 佐藤 真由美)
- 公立世帯中央病院(院長 末崎 由子)
- 尾道市立総合医療センター 公立みづき総合病院(院長 津田 隆)
- 広島市立リハビリテーション病院(院長 西川 公一郎)
- 地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立舟入市民病院(院長 高野 芳則)
- 地方独立行政法人府中市病院機構 府中市市民病院(院長 中井 清治)
- 広島市精神保健福祉センター(所長 山本 昌弘)
- 恩賜財団 済生会広島病院(院長 松本 公治)
- 広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院(院長 田代 進)
- 広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院(院長 山本 昌弘)
- 広島中央保健生活協同組合 福島生協病院(院長 北川 浩)
- 広島中央保健生活協同組合 生協ささるる病院(院長 重本 英司)
- マツダ病院(院長 田村 隆)
- 中電病院(院長 河村 寛)
- 三菱三原病院(院長 寺岡 和史)
- NTT西日本中国四国支店



# 広島大学医学部創立75周年おめでとうございます 広仁会(広島大学医学部医学科同窓会)は 65周年を迎えました

1955年(昭和30年)に発足  
広島大学医学部が75周年を迎えてきた  
医師(広仁会員)は延べ7,000名となり、  
広島を中心に国内外で地域医療から  
国際貢献まで幅広く活躍しています。



第17代会長 小林 正夫(1976年卒)

## 活躍する広仁会員

- 高松 約30名
- 広島 約3,750名
- 岡山 約110名
- 九州・沖縄 約260名
- 全国 約496名
- 海外 約41名
- 北九州 約100名
- 関東圏 約550名
- 東海圏 約170名
- 関西圏 約100名
- 中国圏 約175名
- 全国の医学系大学教員 約90名
- 厚生労働省 約5名
- 独立行政法人医薬品医療機器総合機構(MDLA) 2名
- 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AIAMED) 1名



1996年(平成8年)竣工 広仁会会館  
広島大学医学部キャンパス内

- ### 広仁会歴代会長
- 初代 浅野 弘(1952年卒)
  - 第2代 岩崎 茂(1950年卒)
  - 第3代 水野 守三(1953年卒)
  - 第4代 赤松 和彦(1950年卒)
  - 第5代 山下 隆雄(1952年卒)
  - 第6代 岩崎 茂(1950年卒)
  - 第7代 長尾 邦雄(1952年卒)
  - 第8代 坂本 昭博(1950年卒)
  - 第9代 井上圭太郎(1950年卒)
  - 第10代 増田 哲彦(1954年卒)
  - 第11代 坂本 昭博(1950年卒)
  - 第12代 平田 敏夫(1950年卒)
  - 第13代 大城 久司(1950年卒)
  - 第14代 中谷 一雄(1950年卒)
  - 第15代 新本 健(1950年卒)
  - 第16代 土屋 博隆(1950年卒)
  - 第17代 小林 正夫(1976年卒)

広島大学医学部医学科広仁会  
734-8531 広島市南区西1-2-3  
TEL (082)257-5098 FAX (082)256-5300  
Email info@kojin-med.jp  
http://www.kojin-med.jp

